

**学術論文 2012～2015 (有審査論文を掲載)**

**浦憲親 研究員・教授**

なし

**著書**

なし

**特許 2012～2015**

なし

**国際会議及びシンポジウム等 2012～2015**

**2011年**

1. 浦 憲親, 山本智大 ;  
“一地方の壁土製造法”,  
第 27 回建築生産シンポジウム, 日本建築学会 建築社会システム委員会, pp. 51-56, 2011.

**新聞・報道等 2012～2015**

なし

**講演会 2013～2015**

**2014年**

1.浦 憲親 ;  
“地域産土に関する基礎実験 その2 壁土の粒度組成” 日本建築仕上学会, No. 25, pp. 67-70, 2014  
論文では、地域で利用される土壁用原土の粒度と曲げおよび圧縮強度との関わりについて述べている。土壁用原土は細粒分含有率が高く、粒径加積曲線、液性限界および平均粒径とフロー値は密接な関係がある。フロー値及びふるい分け試験から、曲げおよび圧縮強度をある程度推測できることを示した。しかし、原土の性質は各地域で関係の認められる項目もあるが、顕著でないことを明らかにした。

---

**2013年**

1.浦 憲親、後藤正美、鈴木祥之、山本智大 ;  
“地域産土に関する基礎実験 その1” 日本建築仕上学会, No. 24, pp.69-72, 2013  
論文では、左官業および建材業より実際に使用している土壁用の原土を集め、土質試験規格に準じて調べた材料特性について述べている。壁土は用途に関係なく 2.5mm ふるい通過を試料とした。その結果、壁土の粒度分布はレーザー回折式粒度分布測定装置を用いても JIS の手ふるいと差異がないことを示した。また、粘土割合は S/C に関係なく、圧縮強度と密接な関係があり一次式で表される。荒壁土は産出地による違いも認められるが中塗土および原土の場合顕著でないことを明らかにした。